2021年10月期 決算説明会

2021年12月24日

クミアイ化学工業株式会社

本日のアジェンダ

Ⅰ．新体制の経営方針

Ⅱ．事業環境

Ⅲ．2021年10月期 実績

Ⅳ．2022年10月期 業績予想

Ⅴ．重点施策の実施状況

Ⅵ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅶ．質疑応答

新体制の経営方針

前体制で築いたクミアイ化学の基盤

- ✓ イハラケミカル工業との経営統合
- ✓ 前中期経営計画の完遂（売上高1,000億円企業への成長、戦略的M＆A）
- ✓ グループ基本理念と「あるべき姿」
- ✓ 現中期経営計画の策定
- ✓ スローガン「スピード・コスト・イノベーション」

さらなる企業価値向上に向けて

新体制における3つの方針

- サステナビリティ経営の推進
- プライム市場への移行に合わせた更なるガバナンスの強化
- 夢の実現へ、全てのステークホルダーの幸せを追求

新体制の経営方針

1．サステナビリティ経営の推進

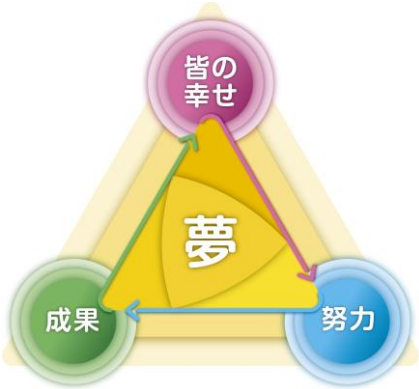
- サステナビリティ基本方針をはじめとする各種方針の策定
- サステナビリティ経営推進体制の整備（サステナビリティ推進委員会の設置）
- 経済価値、社会価値の両立による企業価値の向上

2．プライム市場への移行に合わせた更なるガバナンスの強化

- 2022年4月のプライム市場への移行
- 改訂コーポレートガバナンス・コードへの対応

3．夢の実現へ、全てのステークホルダーの幸せを追求

- 「夢」と「幸せの三角形」
- すべてのステークホルダーの幸せを追求
- 経済価値・社会価値双方の成果を目指す
- このサイクルを地球規模にまで拡大していくことこそが
  クミアイ化学のサステナビリティ経営



本日のアジェンダ

Ⅰ．新体制の経営方針

Ⅱ．事業環境

Ⅲ．2021年10月期 実績

Ⅳ．2022年10月期 業績予想

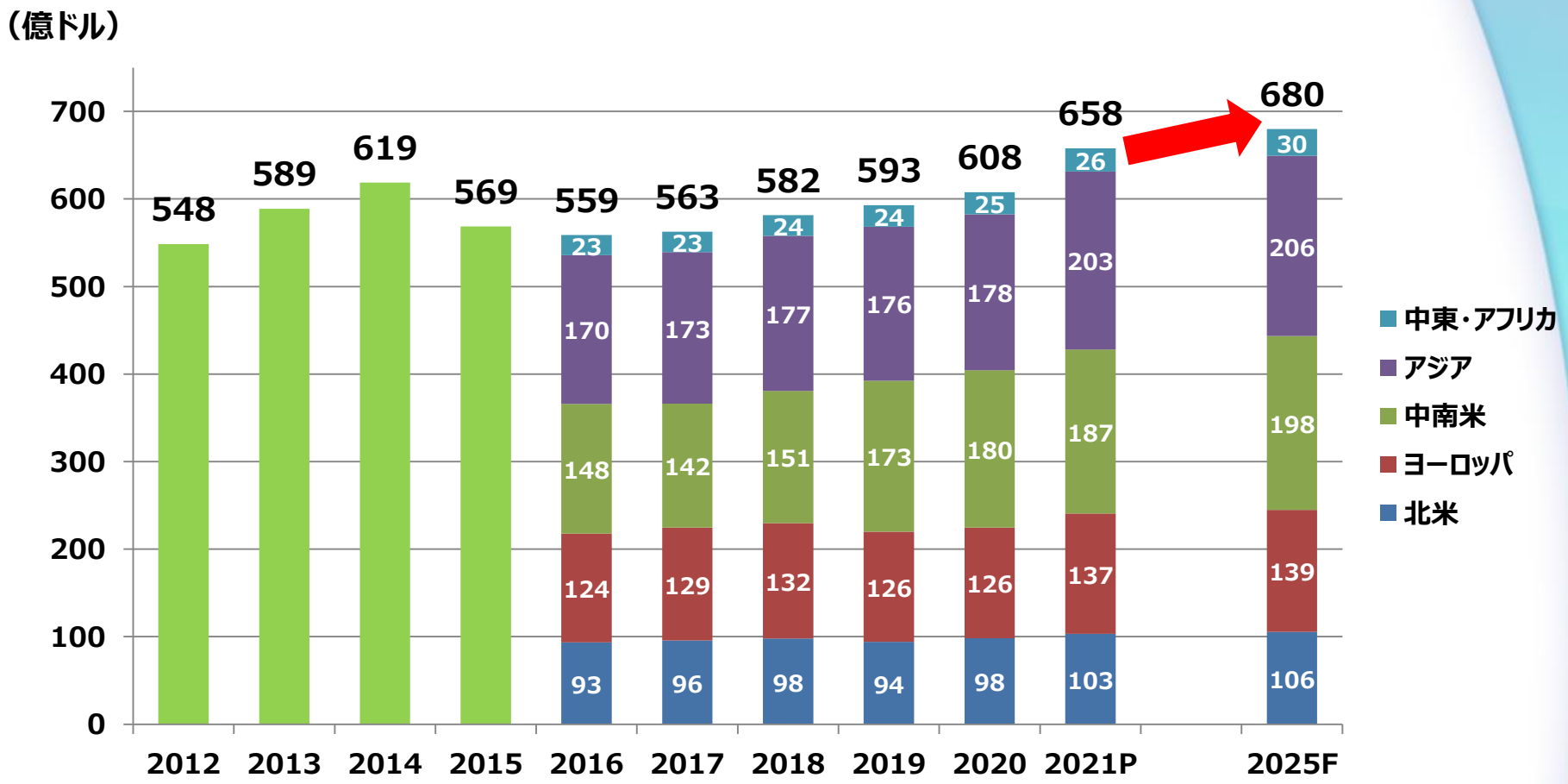
Ⅴ．重点施策の実施状況

Ⅵ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅶ．質疑応答

世界の農薬市場

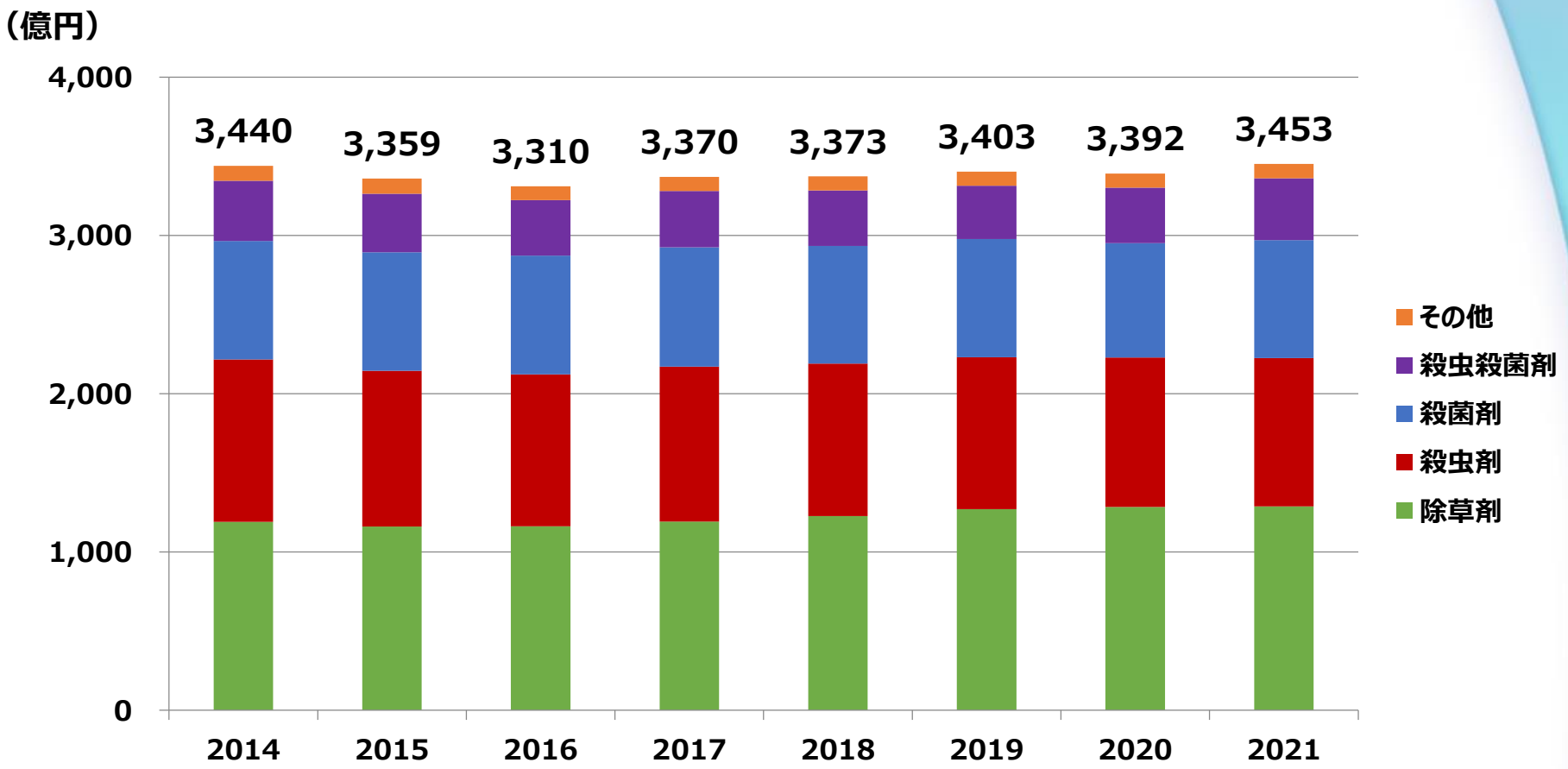
✓2021年度は、穀物需要の増加による作付面積の拡大とそれに伴う農業生産資材需要の増加、比較的良好な気象条件等により、世界各地の市場で大幅な成長
✓今後も継続的な市場拡大が見込まれる



出典：Agbioinvestor

日本の農薬市場

✓3,400億円程度の市場規模で推移
✓本年5月に「みどりの食料システム戦略」が策定され、新たな技術体系の確立とイノベーションによる、生産力向上と持続性の両立への対応が求められる



本日のアジェンダ

Ⅰ．新体制の経営方針

Ⅱ．事業環境

Ⅲ．2021年10月期 実績

Ⅳ．2022年10月期 業績予想

Ⅴ．重点施策の実施状況

Ⅵ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅶ．質疑応答

2021年10月期 実績

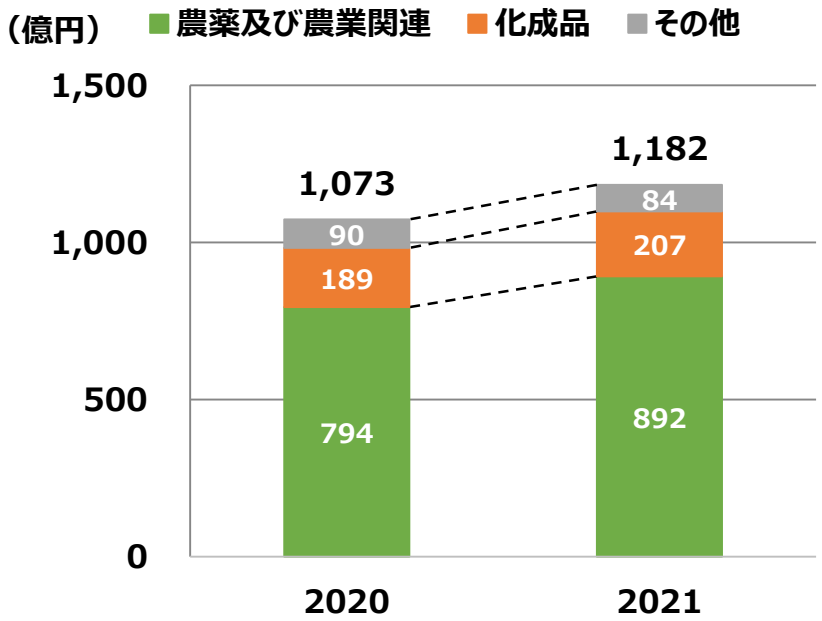
（億円）	2020 実績	2021 業績予想	2021 実績	前年比	予想比	増減要因
売上高	1,073	1,134	1,182	+109	+48	・国内外農薬事業の増収（+） ・化成品事業で精密化学品事業の増収（+）
営業利益	83	83	85	+2	+2	・増収に伴う利益増（+） ・自社剤比率上昇（+） ・販管費削減（+） ・調達価格の上昇（−） ・アクシーブ関税負担増（−） ・輸送コストの増加（−）
経常利益	99	106	128	+29	+22	・為替差益（+）
当期純利益*	66	74	90	+24	+16	−

*親会社株主に帰属する当期純利益

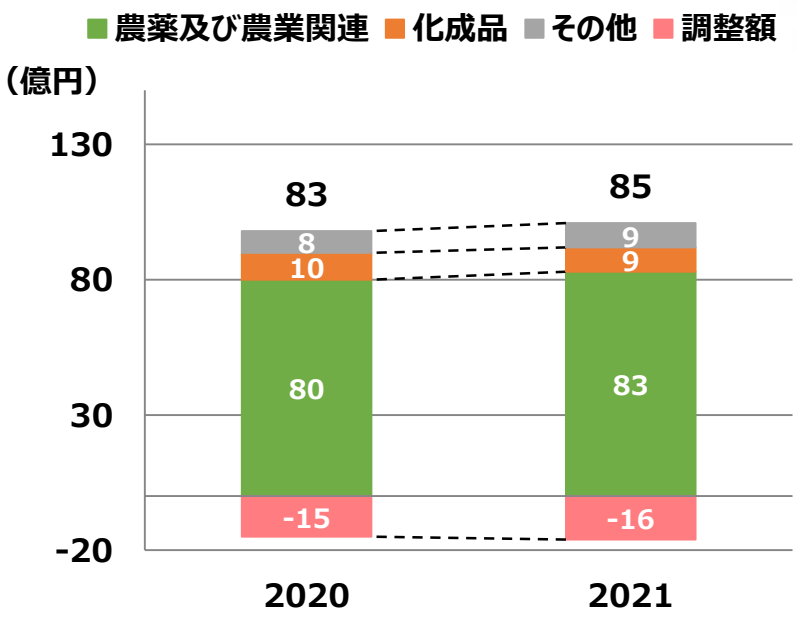
セグメント別売上高及び営業利益

- ✓ 農薬事業が順調に推移し大幅な増収増益
- ✓ 化成品事業はコロナ禍影響の長期化、原材料高騰により増収減益

連結売上高

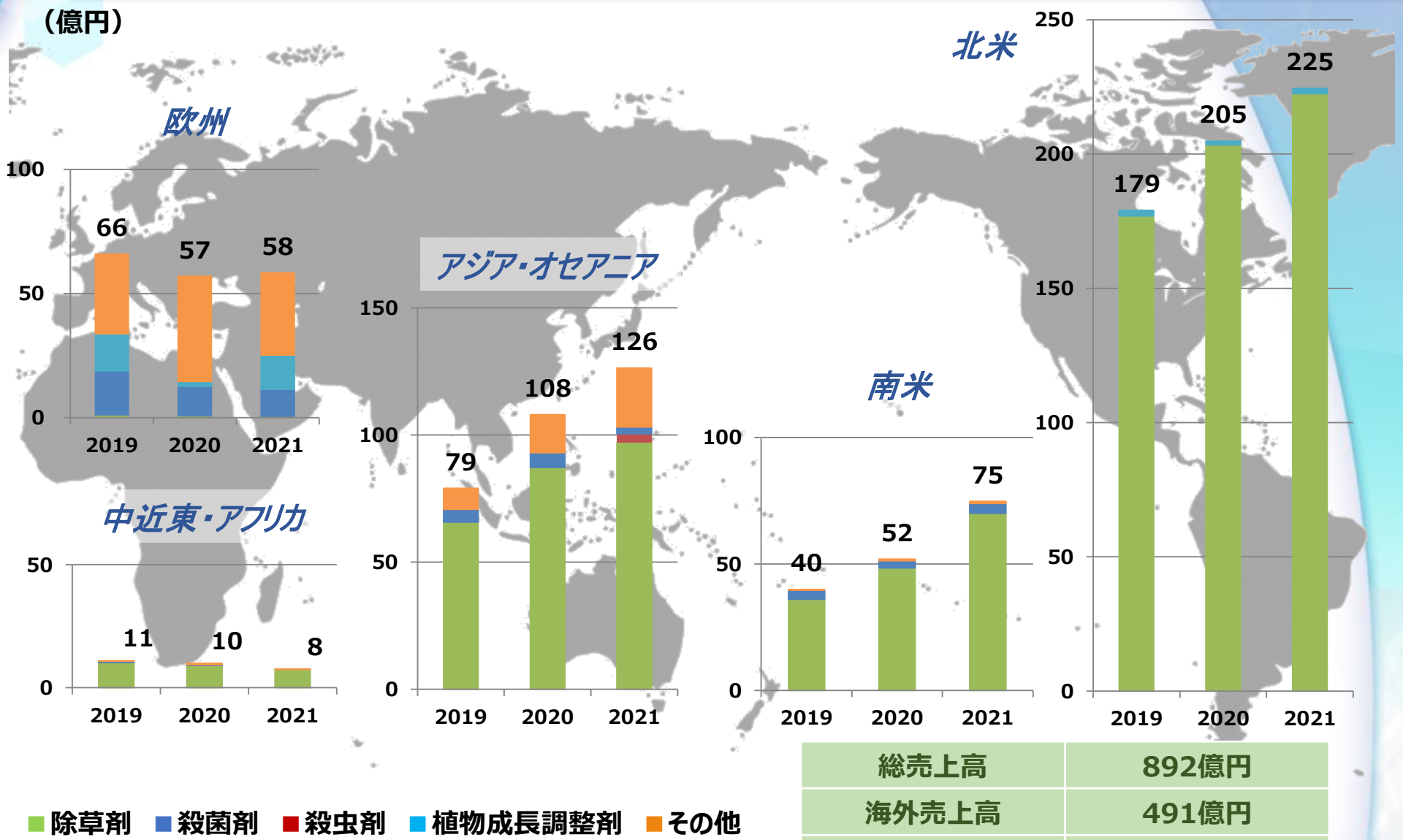


連結営業利益



	売上増減	利益増減
農薬及び農業関連	＋98億円	＋3億円
化成品	＋17億円	－1億円
その他	－6億円	＋0億円

海外地域別・用途別売上高（農薬及び農業関連）

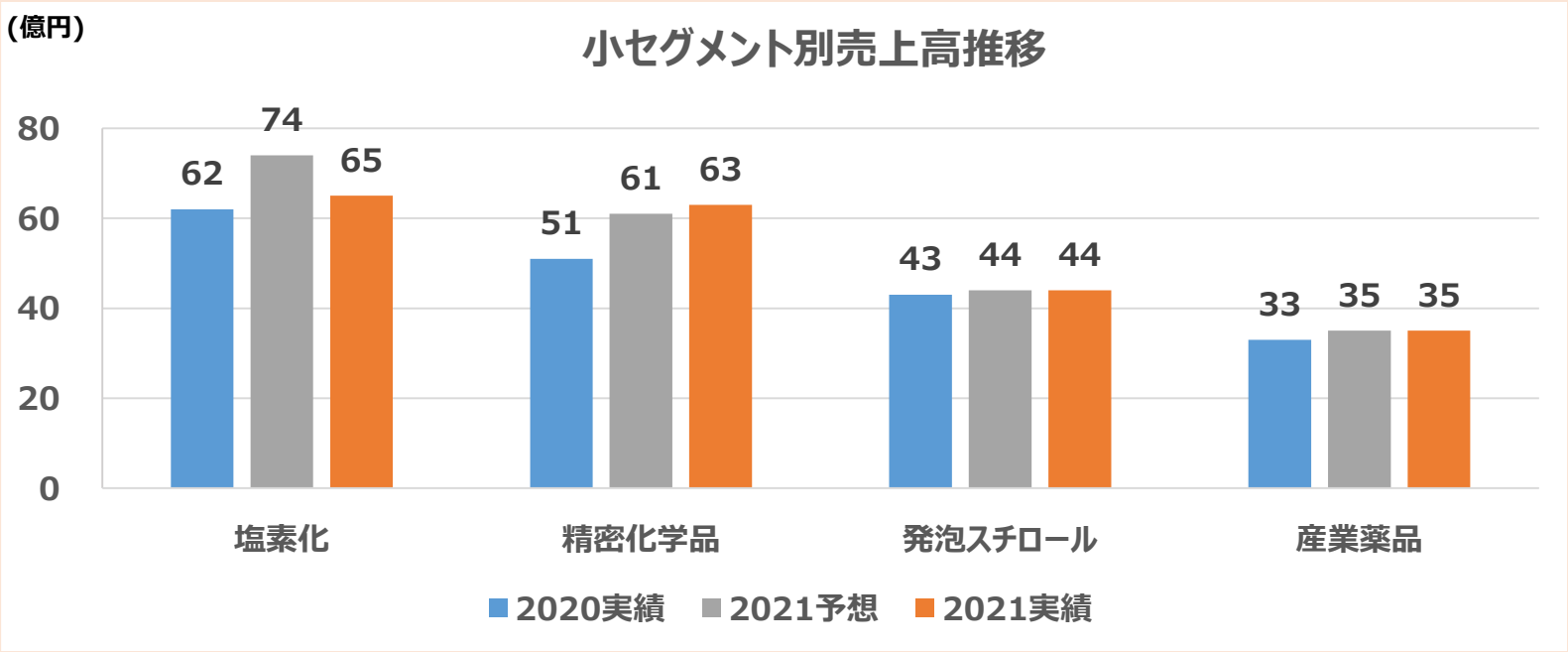


総売上高	892億円
海外売上高	491億円
海外売上比率	55%

2021年10月期 実績

化成品事業

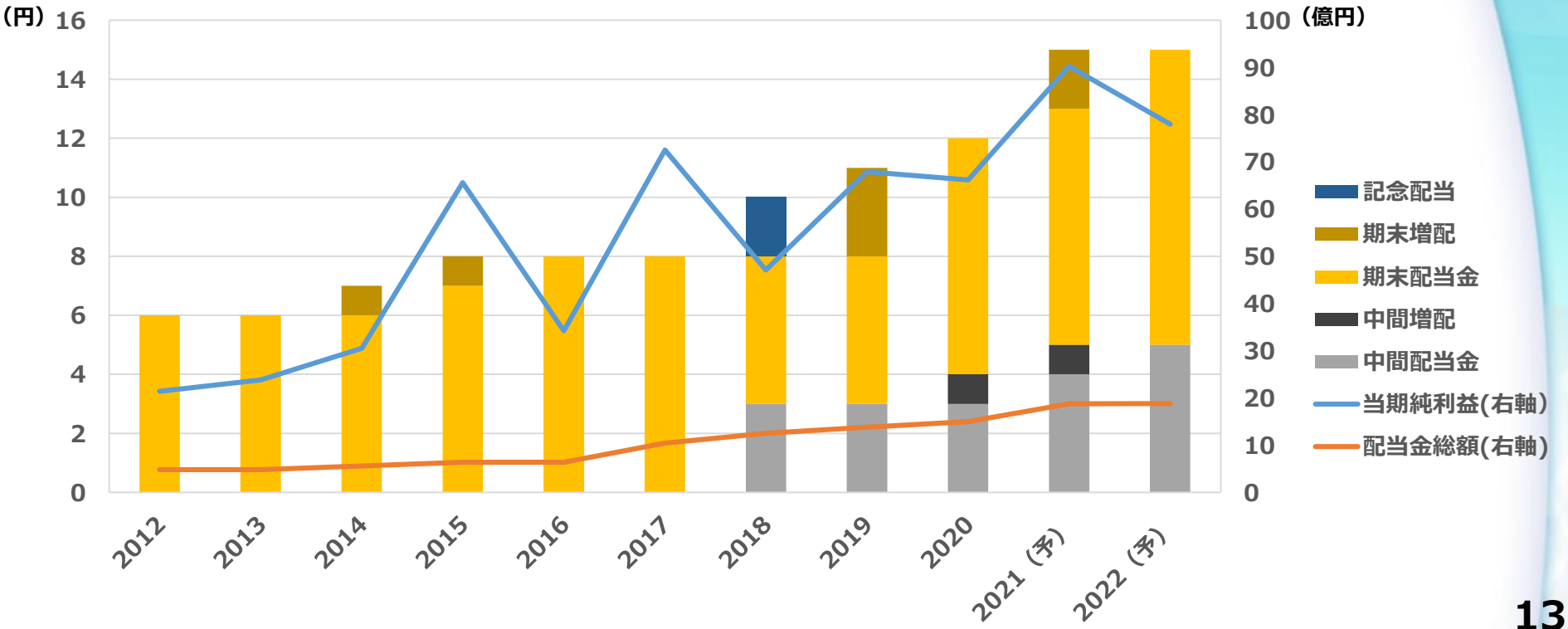
売上高　189億円（2020）→ 207億円（2021）　+17億円	
塩素化	当初予想に比べコロナ禍からの回復に遅れ 原材料費の高騰
精密化学品	半導体需要の高まりを受けビスマレイミド類が好調に推移



株主還元施策

配当基本方針
収益動向を踏まえた株主の皆様への還元及び企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保などを総合的に判断しつつ、安定した配当を継続して行う

- ✓中間配当は従来予想に対して1円増配となる5円を実施
- ✓期末配当は従来予想の8円に対し2円増配の10円を予定
- ✓年間配当は前年比3円増配となる15円を予定



株主還元施策

▸ 自己株式取得

✓資本効率の改善および株主還元の一環として１株当たりの利益の増大を図る

✓経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行する

取得の内容	
取得する株式の種類	当社普通株式
取得した株式の総数	5,000,000株
取得価格	4,080百万円
取得日	2021年12月15日

取得の内容（2021年3月12日公表）	
取得する株式の種類	当社普通株式
取得する株式の総数	5,000,000株（上限）
取得価格の総額見込み	5,500百万円（上限）

本日のアジェンダ

Ⅰ．新体制の経営方針

Ⅱ．事業環境

Ⅲ．2021年10月期 実績

Ⅳ．2022年10月期 業績予想

Ⅴ．重点施策の実施状況

Ⅵ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅶ．質疑応答

2022年10月期 連結業績予想

（億円）	2021 実績	2022 予想	増減	増減要因
売上高	**1,182**	**1,239**	**+57**	**－**
農薬及び農業関連	*892*	*918*	*+27*	**海外：アクシーブ増収（＋） 国内：エフィーダ、ディザルタ増収（＋）**
化成品	*207*	*233*	*+26*	**・コロナ禍からの回復（＋） ・半導体需要の取り込み（＋）**
営業利益	**85**	**90**	**+5**	**・自社剤比率の上昇（＋） ・調達価格の上昇（化成品）（－） ・営業活動の再開による販管費の増加（－）**
経常利益	**128**	**112**	**－16**	**・前期の為替差益要因の消失（－）**
当期純利益*	**90**	**78**	**－12**	**－**

*親会社株主に帰属する当期純利益

2022年10月期 事業計画

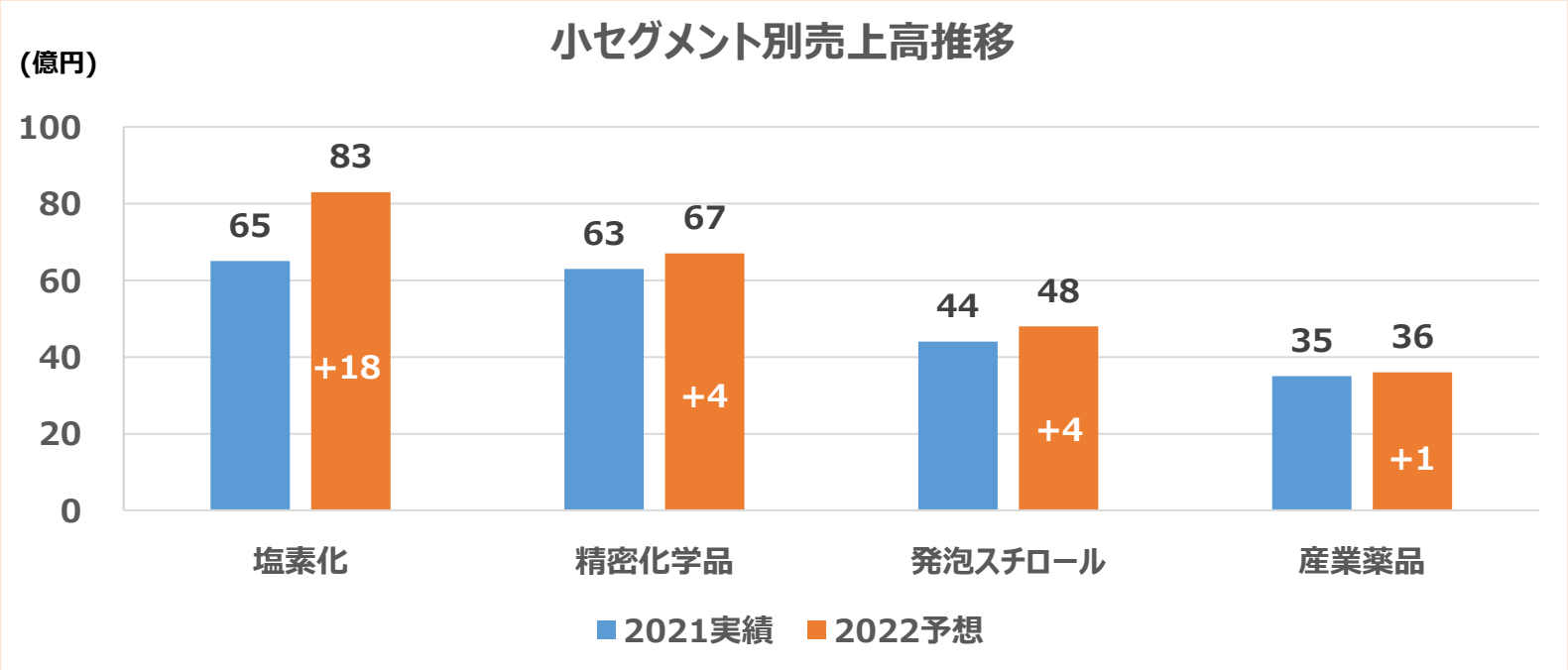
農薬及び農業関連事業

売上高	892億円（2021）→ 918億円（2022） +27億円
アクシーブ (+37億円)	米国およびブラジルでの更なる成長 引き続き良好な市場環境を背景に増収を見込む
ノミニー (+1億円)	前年度並みの販売を見込む
エフィーダ (+11億円)	国内での新規混合剤の上市を予定 国内市場での更なる成長
ディザルタ (+7億円)	国内での新規混合剤の上市を予定 販売二年目での順調な成長を見込む

2022年10月期 事業計画

化成品事業

売上高　207億円（2021）→ 233億円（2022）　+26億円	
塩素化	コロナ禍からの回復
精密化学品	半導体需要の取り込み
発泡スチロール	成型品需要の増加（魚箱、家電向け）



本日のアジェンダ

Ⅰ．新体制の経営方針

Ⅱ．事業環境

Ⅲ．2021年10月期 実績

Ⅳ．2022年10月期 業績予想

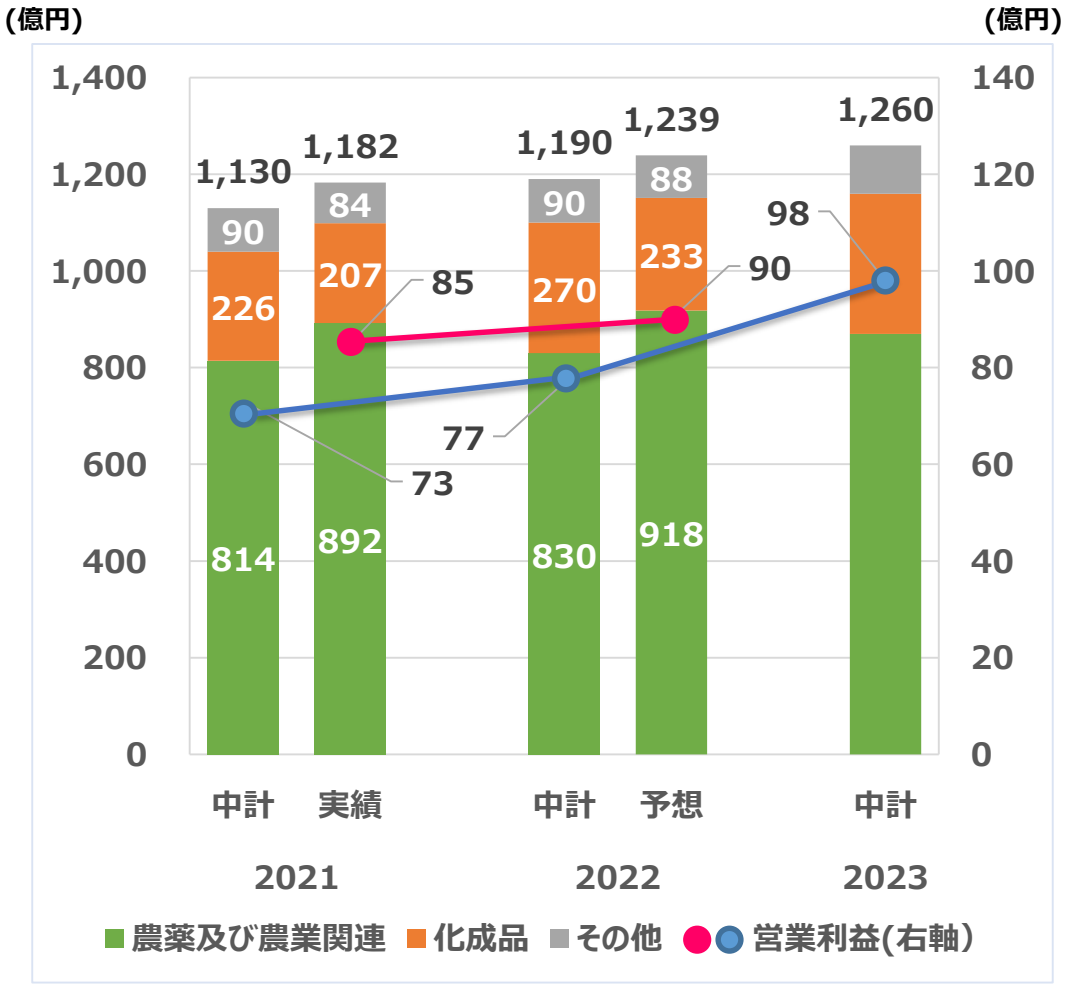
Ⅴ．重点施策の実施状況

Ⅵ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅶ．質疑応答

中期経営計画における業績推移

- ✓ 売上利益ともに当初計画を上振れて推移
- ✓ 農薬事業が成長をけん引、化成品事業はコロナ禍影響からの回復を見込む



事業全体の増減益要因（＋）

- ✓ コロナ禍の長期化による販管費抑制（＋）
- ✓ 輸送コストの上昇（－）

農薬及び農業関連事業の増減益要因（＋）

- ✓ アクシーブ、ディザルタの成長上振れ（＋）
- ✓ アクシーブの関税負担増（－）

化成品事業の増減益要因（－）

- ✓ 塩素化事業のコロナ禍影響長期化（－）
- ✓ 調達価格の上昇（－）
- ✓ 半導体需要の取り込み（＋）

⇩

増益要因が強く、中期経営計画達成に向け順調に推移

中期経営計画における重要方針・重点施策

重要方針	重点施策
研究領域、事業領域の拡大	革新的な技術開発による研究領域の拡大 新規事業の開拓、新技術の導入による事業領域の拡大 成長戦略の推進による既存事業の拡大
販売ルートの多様性確保	海外での販売ルートの多様化 新規アイテム・受託テーマの創出による新規販売チャネルの開拓
コスト競争力の確保	製品原価低減に向けた生産体制、調達の最適化 生産技術の改善、生産プロセスの自動化による生産性・品質向上とコスト削減
ESGを重視した企業活動	環境負荷の低減を図った製品の開発、生産体制の構築 会社情報の積極的な発信 グループコンプライアンス体制の強化と推進 内部統制システムの的確な整備、運用 ステークホルダーへの農薬の必要性・安全性に関する啓発活動の立案と実践

青：全事業　緑：農薬及び農業関連　橙：化成品

主な取り組みについて

農薬及び農業関連事業	
既存事業の拡大	アクシーブの最大化 新剤の成長（エフィーダ・ディザルタ）
研究領域・事業領域の拡大	新剤・新技術の開発
販売ルートの多様性確保	AAI社※を活用した新規市場の開拓

化成品事業	
既存事業の拡大 コスト競争力の強化 販売ルートの多様性確保	塩素化事業の拡大 半導体需要の取り込み

サステナビリティ経営への取り組み	
ESGを重視した企業活動	サステナビリティ基本方針の策定 サステナビリティ推進体制の整備 経済価値、社会価値の両立による企業価値の向上

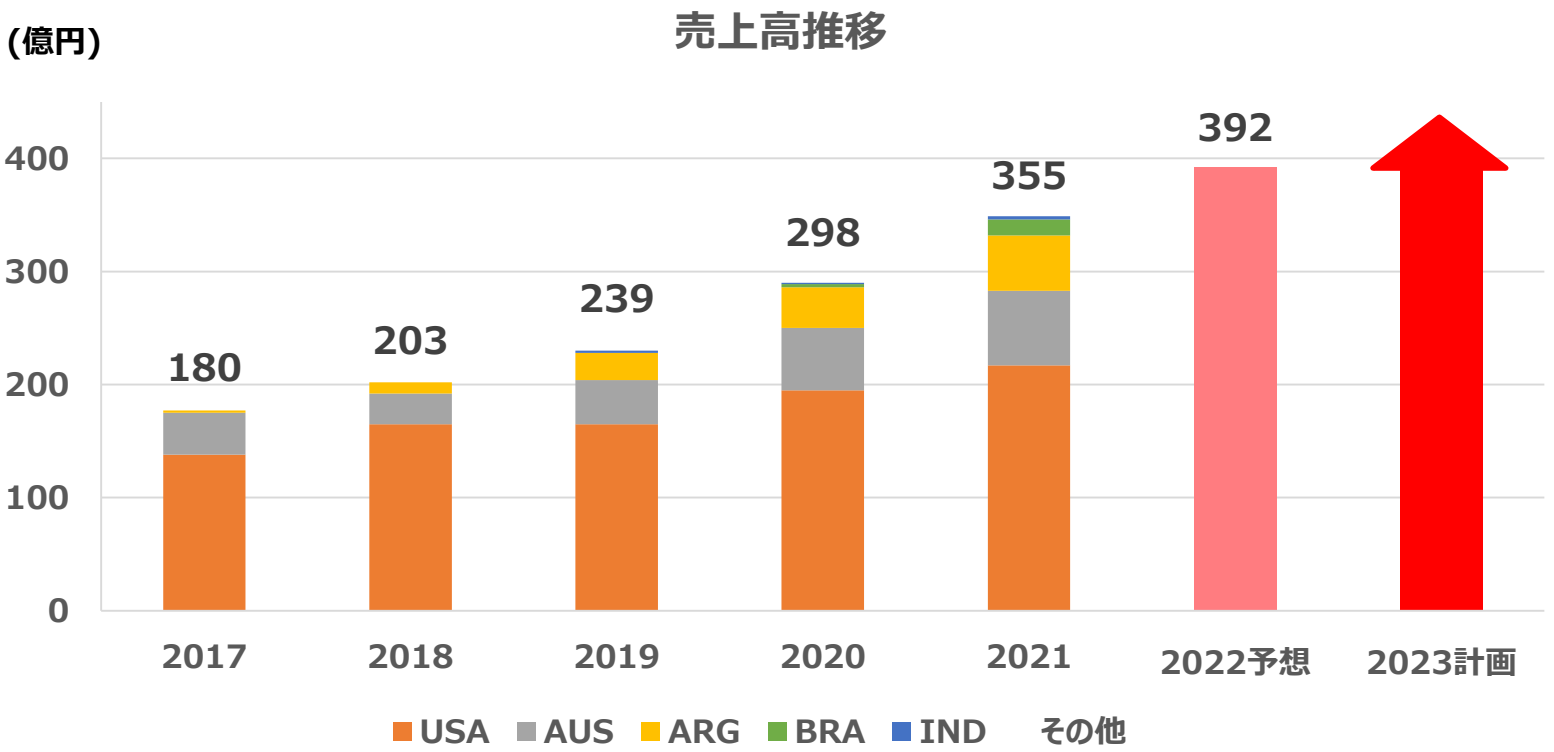
※ Asiatic Agricultural Industries社

重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

▸ アクシーブ（畑作用除草剤）

✓各国における最大化戦略の実施による事業全体の最大化

✓off-patent品や原価高の動向への注視及び対策
マーケティング戦略（新規混合剤開発等）、知財戦略、コストダウン検討



重点施策の実施状況（既存事業の拡大）

▸ エフィーダ（水稲用除草剤）

✓2021年度は大幅増収を達成
水稲一発処理除草剤シェアNo.1を奪還

✓新規混合剤の継続的な開発による成長の推進
新剤1剤を2022年上市予定

✓海外での開発を推進
欧州での原体登録を申請（2021年3月）

▸ ディザルタ（水稲用殺菌剤）

✓水稲箱処理殺虫殺菌剤の需要の高まりを受け、
2021年度は計画を大幅に上振れ

✓新規混合剤の継続的な開発による成長の推進
新剤1剤を2022年上市予定

✓海外での開発を推進

重点施策の実施状況（研究領域・事業領域の拡大）

▸ 新剤の開発

- ✓ 新規殺ダニ剤フルペンチオフェノックスの開発
  新規作用性のダニ剤として開発中
  2022年度登録申請予定
- ✓ 新規微生物農薬ARK-1の開発
  難防除病害であるブドウ根頭がん種病に効果を示す世界で唯一の農薬として開発中
  2022年度登録申請予定
- ✓ パイプライン候補化合物の早期開発ステージアップ

▸ 新技術の開発

- ✓ 微生物を活用したバイオスティミュラントの開発
- ✓ 農地から発生するメタンガスの抑制技術（国際特許出願済み）
- ✓ 糸状菌改変による抗生物質の生産性向上研究を活用した医農薬製造技術
- ✓ ゲノム編集技術を応用した環境ストレス及び病害虫耐性作物の作出

重点施策の実施状況（既存事業の拡大、コスト競争力の確保）

自然に学び 自然を守る
クミカ

‣ 成長戦略の推進による既存事業の拡大（塩素化事業）

9 産業と技術革新の基盤をつくろう
11 住み続けられるまちづくりを
12 つくる責任 つかう責任

- ✓ イハラニッケイタイランド第2プラント稼働開始
- ✓ コロナ禍影響からの回復（TPCの需要回復への対応）
- ✓ その他既存品目の成長及び新規品目の開発

第1プラント（2018年9月～）

IPC（イソフタル酸クロリド）プラント

‣ 防護衣料、難燃剤など向け

第2プラント（2021年4月～）

TPC（テレフタル酸クロリド）プラント

‣ 自動車部材、防弾チョッキ、光ファイバー保護樹脂・ゴム強化剤など向け

本日のアジェンダ

Ⅰ．新体制の経営方針

Ⅱ．事業環境

Ⅲ．2021年10月期 実績

Ⅳ．2022年10月期 業績予想

Ⅴ．重点施策の実施状況

Ⅵ．サステナビリティ経営への取り組み

Ⅶ．質疑応答

SDGs、ESGを重視した企業活動

自然に学び 自然を守る
クミカ

企業理念

私たちは創造する科学を通じて「いのちと自然を守り育てる」ことを
メインテーマとし、安全・安心で豊かな社会の実現に貢献します

食料需要増
飼料需要増

人口増

エネルギー
問題

バイオ燃料
省エネルギー

地球環境
変化

クミアイ化学グループの「あるべき姿」

独自技術で豊かなくらしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献する
フレキシブルで存在感のある企業グループ

デジタル
技術

温暖化
水不足

環境保護

くらしの安
全安心

データ高速通信
スマート農業

環境負荷低減
陸、海の環境を未来へつなぐ

食の安全安心
くらしに役立つ素材

サステナビリティ経営への取り組み

サステナビリティへの認識を全役職員に浸透させ、企業風土への定着を図り、グループを挙げたサステナビリティ経営を推進する

▸ サステナビリティ基本方針の策定

(1)サステナビリティ基本方針及び付随する9つの基本方針を制定

E：環境に関する基本方針
S：CSR調達に関する基本方針、人財マネジメントに関する基本方針
人権に関する基本方針
G：コーポレート・ガバナンスに関する基本方針、CSRに関する基本方針、
贈収賄防止に関する基本方針、リスク管理に関する基本方針、
コンプライアンスに関する基本方針

▸ サステナビリティ推進体制

(1)2021年11月1日付で「サステナビリティ推進委員会」を設置

- ✓ サステナビリティの推進に係る重要事項についての審議機関
- ✓ 下部組織として、ESGそれぞれの課題等について協議するための「環境部会」、「社会部会」、「ガバナンス部会」を設置

(2)グループ全体へ浸透を図るべく、グループ経営を統治するグループ経営トップ戦略会議の下に「サステナビリティ推進部会」を設置

サステナビリティ経営への取り組み

▸ 経済価値、社会価値の両立による企業価値の向上

(1)各事業における取り組みの推進

農薬及び農業関連事業：みどりの食料システム戦略への対応

- ✓ より安全・安心で、環境に配慮したイノベーション型農薬の開発
- ✓ 研究開発力の更なる強化及び蓄積した研究成果の実用化による、農薬の枠を超えた事業領域の確立

化成品事業：安全で豊かな生活に資する製品の開発・供給

- ✓ インフラ、先進技術等に活用される化成品

(2)社会に求められるサステナビリティ経営に関する取り組みの推進及び一貫性ある明確な情報開示の実施

- ✓ サステナビリティ経営推進のためのKPIの設定
- ✓ TCFD、CDPへの対応
- ✓ 統合報告書の発行
- ✓ HP、各種発信媒体での情報発信の拡充
- ✓ サステナビリティ経営への理解促進・意識醸成

サステナビリティ経営への取り組み

自然に学び 自然を守る
クミカ

▸ 経済価値、社会価値の両立による企業価値の向上

(3)農薬の必要性・安全性に関する啓発活動

✓ 安全・安心で安定的な食料生産を支える農薬及び農業関連事業は、事業そのものが社会貢献

作物	収量減(%)	収入減(%)
水稲	24	30
小麦	36	66
大豆	30	34
トウモロコシ	28	28
りんご	97	99
もも	70	80
キャベツ	67	69
だいこん	39	60
きゅうり	61	60
トマト	36	37

※(社)日本植物防疫協会における1991年、1992年及び2004～2006年の試験結果
農薬を使用しない場合の病害虫などの影響
減少率は慣行防除区との比較

農薬を使用しなかった場合…
✓収量の低下
✓収穫物の品質の低下
✓出荷金額（収入）の低下

生産性、経済性、持続性の確保は難しい

✓農薬は食料生産の生産性・持続性の確保に必須な資材であり、
「人類の持続性に重要な役割を果たす」
✓必須な資材だからこそ、より安全で環境負荷の低い農薬の開発が必要

サステナビリティ経営への取り組み

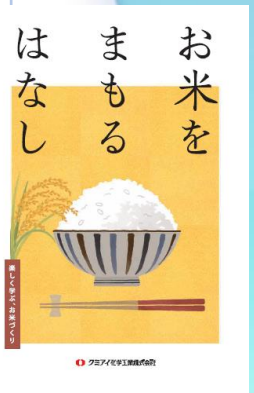
自然に学び 自然を守る
クミカ

- 経済価値、社会価値の両立による企業価値の向上

(3)農薬の必要性・安全性に関する啓発活動

✓ 農業・農薬に関する情報発信や正しい知識の啓発による、一般消費者を含むステークホルダーへの理解促進
→小学生を対象に、お米作りの過程を通して農薬の役割を伝える冊子「お米を まもる はなし」を作成し、教材として提供

✓ 農業従事者の皆様に自信をもって農薬を使用していただける環境づくりにより、日本の農業を盛り上げる



持続可能な社会の実現に貢献し続ける企業として事業を推進

※農薬の正しい知識や必要性・安全性等については農薬工業会ホームページで分かりやすく紹介されています
農薬工業会ホームページ:https://www.jcpa.or.jp/

ご清聴ありがとうございました。

自然に学び 自然を守る

クミカ

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手された情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部　総務人事部　広報・IR課
TEL: 03-3822-5036
FAX: 03-3823-6830

弊社IRサイトもご覧ください　http://ir.kumiai-chem.co.jp/